

【完結】 飛電インテリジェンス代表取締役社長飛電或人の1日

ネガ@新作未定

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

夢に向かって飛ぶ若きAIテクノロジー企業の社長の1日。

※本小説は特撮番組「仮面ライダーゼロワン」の二次小説となっています。

※完結しました。

2022年 1月10日 投稿開始

1月13日 完結！

目次

第1話	コレがオレの1日の始まり	1
第2話	オレの仕事は続くよ午後からも	7
最終話	明日もオレは夢に向かって飛ぶ	11

第1話 コレがオレの1日の始まり

人工知能搭載人型ロボヒューマギアが、様々な仕事をサポートする新時代。

1人の人間と1体のヒューマギアが己の悪意を乗り越え、世界滅亡を仮面ライダー達が阻止してから束の間の平和が訪れた。

これは、夢に向かって飛ぶAIテクノロジー企業の若き社長・飛電或人の1日に密着した物語である。

AM 8 : 42

午前8時42分。朝日が登り、鳥の囀りが聞こえる中、人々が通勤する時間帯。

AIテクノロジー企業「飛電インテリジェンス」代表取締役社長・飛電或人の朝は…

「やっべえええええ！ 遅刻だあああああ！」
慌ただしい。

スーツの下にパーカーを着ている青年が叫びながら歩道を全力疾走している。彼こそが仮面ライダーゼロワンであり、飛電インテリジエンス社長・飛電或人だ。元々は売れないお笑い芸人だったが、祖父である初代社長・飛電是之助の遺言を受けて社長となり、度重なる苦境を乗り越え、人とヒューマギアが笑顔でいられる未来の為に飛び続ける。

…というもの、朝に弱く、寝坊癖はまだ治っておらず、彼の朝は慌ただしい。

遅刻したらまた副社長と常務に苦言を呈されてしまうので、とにかく全力疾走で会社へ通勤するのだった。

「昨日目覚まし7個かけたのにー！ー！」

AM8:57 出勤

全力疾走する或人はそのまま飛電インテリジエンスのビルに入る。息を切らす或人の腕時計の針は8時57分を指している。ギリギリセーフの出勤だ。

「ハア…ハア…！ギリギリセーフ…！」

「社長、おはようございます！」

「おはようございます。」

「ああ…ハア…おはよう…！」

或人は何とか遅刻せずに出社。社員と朝の挨拶を交わしながらエレベーターへ向かう。

「或人社長、おはようございます。」

「おはよう。マモル。」

或人に挨拶をしたのは、右腕に黄色のハンカチを巻く警備員型

ヒューマギア・マモルだ。

「今日も一日、頼んだぞー！」

「はい。この会社を守るのが、私の仕事ですから。」

マモルと朝の挨拶を交わした或人は、そのままエレベーターへ歩いて行くのだった。

「或人社長のギリギリ出勤の回数、今月で7回目です。」

「全く…うちの社長は朝に弱いな。」

エレベーターに向かう或人を眺めているのは、副社長の福添准と副社長秘書ヒューマギア・シエスタ、そして眼鏡をかけた専務取締役の山下三造だ。

「まあまあ副社長。これからも見守っていきましょう。」

「……そうだな。シエスタ、山下専務。私達も今日も一日、仕事に励むぞ。」

「はいー！」

エレベーターを降り、或人は自身の社長室へやって来た。この社長室は秘密のラボにもなっており、かつて打ち上がった衛星ゼアにアクセスしたり、プログライブスキー等を構築する多次元プリンターなどがある。

「おはようございます。或人社長。」

「イズ、おはようー！」

社長室で或人を出迎えて挨拶をしたのは秘書型ヒューマギア・イズ。彼女が或人の社長秘書であり、幾度となく或人を支えてきたヒューマギアだ。

或人は自身の机に向かい、椅子に座る。これから社長としての仕事

が始まるのだ。

「よし、今日も一日頑張るぞ！」

AM9:00 始業

AM9:30 売り上げ、契約件数のまとめ

「えーっと…今月のライズフォンの売り上げが先月に比べて少し下がってるから…来月までには黒字にしないと…後ヒューマギア派遣の契約件数は…先月に比べて多くなってる。この調子なら来月は黒字かな…」

或人は、机のノートパソコンでヒューマギアの契約件数や主力商品の1つである携帯・飛電ライズフォンの売り上げを纏めている。いざ仕事になれば彼も真剣な眼差しでキーボードを打っている。

「或人社長。本日のスケジュールです。」

「ありがとう。えーっと…11時に商談で、午後からヒューマギアの派遣先に訪問と第四工場と飛電宇宙開発センターへ視察だね。じゃあそれまでに終わらせないと。来週Z A I Aの与多垣社長との商談でのアポも取っておいてくれる?」

「かしこまりました。」

イズが投影したスケジュールを確認し、今日の仕事の予定を確認する。

今月の売り上げや契約件数をまとめた後は、稟議書に目を通して承認の判子を押したり、取引先の社長との電話、銀行から借りた資金の配分が適切か利益に繋がるかをチェック。社長としての仕事をしつ

かりと果たす為にやる気に満ちた眼差しで励む。

「うちも人手が足りなくてヒューマギアを導入したいと思ってるんですが、不安な所もありまして…」

「不具合等があれば、我が社が責任もって対応します。それから…」

AM 11:00 商談

午前11時。取引先の社長と商談。社長として、取引先と友好的な関係を築く為にも必要な事だ。取引相手の社長は事業拡大の為にヒューマギアの導入を決定した。

「今日はありがとうございます。」

取引先の社長にお辞儀する或人。1時間ほどの商談を終え、気がつけば正午だ。

「お疲れ様です。或人社長。」

「ふう〜取引先との商談も大変だなあ…あ、もうこんな時間だ。よし！昼にしよう！寝坊して朝食抜きだったから、超！シヨック！ハイ！アルトじやくないと！」

イズに向かつていつものダジャレのギャグを披露する或人。

「それは、「朝食」と「超シヨック」をかけた…」

「お願いだからギャグを説明しないで〜!」

この流れもお約束である。

PM12:00 昼食

正午。待ちに待った昼食の時間。或人は社員と同じ社内の社員食堂で食事をする事にした。

メニューは白ご飯に味噌汁、キャベツのサラダに赤魚の煮付け、ほうれん草のおひたしにひじきという和食。寝坊して朝食を食べられなかった或人の箸が進む進む。ご飯をかき込み、味噌汁をすすって煮付けに舌鼓を打つ。キャベツのサラダもほうれん草とひじきも美味しい。午後の仕事に備えて力をつける。

そして或人は最後に水を飲んで、完食した。

「ごちそうさま! 昼からも頑張るぞ〜!」

飛電或人の仕事は、まだまだ続く。

第2話 オレの仕事は続くよ午後からも

PM13:05 ヒューマギアの派遣先への訪問

午後13時5分。飛電或人の仕事はまだまだこれから。

或人はイズと共にヒューマギアの派遣先へ出向く事に。

これも社長の大事な仕事であり、或人は率先して派遣先へ出向いているのだ。

「最初の訪問先は…くすくすドリームランドか。」

「はい。かつて或人社長が働いていた遊園地ですね。多数の係員型ヒューマギアと腹筋崩壊太郎を派遣した場所です。」

或人とイズが最初に訪問したのは、「くすくすドリームランド」。かつて或人がピン芸人として働いていた場所だ。かつて滅亡迅雷・netによつてハッキングされたヒューマギアによつて襲撃を受けるが、或人が変身したゼロワンによつて暴走したヒューマギアは殲滅され、その後復旧されたとの事。

「或人君。まさか君が社長になるとはね。」

「支配人、お久しぶりです。」

或人と話しているのは支配人である根津光国。このくすくすドリームランドにも係員型ヒューマギアを導入しており、彼もまたヒューマギアを認めてある。そして、暴走したヒューマギアに襲われそうになった所を或人が助けたのだ。

「あの黄色いヒーローが君だったとは…驚きだよ。あの時君が助けてくれたおかげで、今こうして私はここで、お客さんの笑顔を見ることが出来ている。君の会社が生み出してくれたヒューマギアが、たくさんの人々を助けている。」

「俺も嬉しいです。支配人の夢を守る事が出来て。これからも腹筋崩壊太郎をはじめとしたヒューマギア達と一緒に、たくさんのお客さん達を笑顔にしてください。」

「腹筋パワー！」

お笑い芸人型ヒューマギア・腹筋崩壊太郎の腹筋飛ばしで観客が笑いの渦に巻き込まれている所を或人とイズ、そして根津は微笑ましく眺めるのだった。

「多数の笑顔を検出しました。」

くすくすドリームランドを後にした或人とイズは、配達員型ヒューマギア・オクレルが働く「来凶運送」、寿司職人型ヒューマギア・一貫ニギローが働く「まごころ寿司」、といった或人がこれまで会ってきたヒューマギア達が働く派遣先へ次々訪問して行った。

道中、或人はイズに話しかける。

「イズ。俺は嬉しいよ。たくさんの人達がヒューマギアを必要としてくれていて。この先ずっと、人とヒューマギアが笑っていられる未来が続くように、俺はこれからも走り続ける。」

「私も同じです。或人社長と共に走り続けます。何故なら私は、或人社長の社長秘書ですから。」

PM15:15 ヒューマギア第四工場の視察

「こんにちは。」

「社長さん、お待ちしております。」

午後15時15分。或人とイズは、ヒューマギアを製造する第四工場に視察しにきた。ヘルメットを被る或人とイズは、工場長の案内で製造ラインを歩いている。

「ここでヒューマギアが作られるのか、確か今稼働している工場が一番新しいんでしたっけ？」

「はい。この工場は最新しく建てられたので、設備も最新のものを使っています。」

製造ラインを抜け、ヒューマギアの素体はベルトコンベアで送られて梱包、トラックの荷台に乗せられて出荷するのだ。

ラインでは作業員達がヒューマギアの素体に部品を取り付けたり、検品を行なっている。ヒューマギア達が製造されているのは、ここで働く人たちのおかげなんだなど或人は日夜働く作業員に感心するのだった。

PM16:05 飛電宇宙開発センターの視察

午後16時5分。第四工場の視察を終えた或人とイズは、飛電宇宙開発センターへやって来た。

「イズ、ここには何の用で来たの？」

「はい。衛星ゼアの後継機の新型通信衛星の初号機の開発が進む中で、或人社長にご覧になって頂きたいのです。」

かつて衛星ゼアは激しい戦いにおいて破壊された為、新たな後継機が製造される事となったのだ。

「社長、お待ちしていました。」

「こんにちは。」

或人とイズを出迎えたのは、飛電宇宙開発センターの所長。彼の案

内でその新型通信衛星の初号機が保管されている場所へやって来た。所長の案内でやって来た或人とイズを出迎えたのは、衛星ゼアと同型の巨大な人工衛星だった。

「おおく！コレがゼアに代わる新しい通信衛星！」

「はい。名付けて、「衛星ウイア」です！」

衛星ウイア。人とヒューマギアが手を取り合う未来の為に生まれた新たな通信衛星。名前の由来は「私達」を意味する We' are から名付けられたのだろう。

人と人工知能が共に手を取り合う未来。その夢に向かってウイアは飛び立つ時をじっと待っている。

或人とイズは、ウイアの初号機を見上げていた。

「イズ。俺達も人とヒューマギアが手を取り合い、ずっと笑っている未来の為に進んで行こう。」

「はい。共に夢に向かって飛びましょう。或人社長。」

最終話 明日もオレは夢に向かって飛ぶ

飛電宇宙開発センターを後にした或人とイズは会社に戻り、社長室で或人はノートパソコンで今日の業務内容を纏めている。

「よし！これで全部終わった〜！」

ノートパソコンを閉じて、背伸びをする或人。

すると、時計から終業を知らせるチャイムが流れる。或人の1日の仕事が終わる時間だ。

「終業時刻となりました。或人社長、今日も1日お疲れ様でした。」

身支度を整え、鞆にノートパソコンを入れた或人はイズに退勤の挨拶を交わして社長室を出る。

「イズもお疲れ様。それじゃあまた明日！」

「お疲れ様でした社長。」

「みんなもお疲れ！」

PM17:05 退勤

午後17時5分。社員達に挨拶しながら或人は退勤。ビルを出て、人々が行き交う街へ歩いて行く。この時間帯は仕事終わりに飲みに行く人や家族のもとへ帰る人が多い。

或人が歩いていると、ビルの奥に沈みゆく陽が見える。

それを見た或人は今日も1日が終わるんだなと思いつつながら、帰路につくのだった。

「そうだ。今日の夕飯の材料買ってこなきゃ。」

PM17:30 夕飯の材料の買い出し

「お。今日は豚肉が安いな〜」

午後17時半。帰宅中の或人はスーパーで夕飯の材料の買い出しをしている。或人がよく行くこのスーパーは安く、品揃えも豊富。或人は買い物籠に豚肉や野菜などの食材を入れてカートを押して行く。辺りを見回すと、店員型ヒューマギアがレジ打ちをしたり、商品の補充などをしている。

(ここにもヒューマギアが働いてる。嬉しいなあ。人々の社会の支えになってる。俺が仕事を終えてもこうやって店員さんとヒューマギア達も頑張ってる。俺も頑張らないと。)

自分が仕事を終えてもスーパーの店員と共に働いているヒューマギア達に感心しながら或人はカートを押して行った。

「ただいまーつとー! ああ〜今日も疲れた〜」

PM18:00 帰宅

午後18時。或人は自宅のアパートに帰ってきた。部屋の電気をつけ、鞆を置き、食材の入ったマイバッグを台所に置く。それからジャケットとズボンとパーカーを抜いで、部屋着に着替える。そして夕食の準備だ。

しばらくして、夕食の準備でエプロンを巻く或人はフライパンで豚

肉を炒めている。1人暮らしの或人は自炊をしているので、料理は得意。芸人時代は、やはりお笑いで食べていくには厳しかった。その為食費を浮かせる為に自炊を始め、いつの間にか料理も出来る様になった。

「いただきまーす！」

PM18:45 夕食

午後18時45分。夕食の時間だ。1日働いた後に食べる自分で作った夕食の味は格別だろう。今日のメニューはたまごのふりかけをかけたご飯にワカメの味噌汁、豚の生姜焼きとレタスのサラダだ。ちなみに或人は先に食器洗いなどを済ませてから食事につく。その方が効率が良いからだ。豚の生姜焼きは自信作。味噌汁やサラダも美味しい。箸が進む進む。あつという間に平らげてしまった。

「ごちそうさまー！」

「えーっと…明日は役員会議があるから…早めに準備しておかないと…資料ももうすぐ完成だから…」

PM19:30 明日の仕事の準備

夕食が終わり、或人はノートパソコンを開いて明日の会議において今後のヒューマギアやライズフォンの売り上げについての会議や経営方針や事業についての資料を纏めている。明日の為に少しづつ作成していき、会議で発表する為だ。社長として社員を引っ張っていく

為に。亡き祖父が託したこの会社を成長させる為に。亡き父の言葉の通り、夢に向かって飛ぶ為に。

P M 2 1 : 3 0 入浴

「はあくいい湯だなあく」

午後21:30分。或人は風呂に入っている。こうして1日の仕事の疲れを湯と共に流すのだ。今日の仕事が終わり、1日が終わる時に風呂に入れば気分もリフレッシュ出来る。ちなみに頭に乗せているのは最近行った昭和の香りがする古き良き銭湯でちよつとお節介な青年に勧められて買ったゼロワンのトレードカラーである黄色のタオルだ。

「ニューヨークで、入浴！ハイ！アルトじゃくはないと！」

と、風呂でギャグを披露したり、新しいギャグも考えてたりする。イズの前で披露すれば、いつもの通り解説されてしまうが。

P M 2 2 : 0 0 自由時間

入浴を終えた後は、消灯までの間に漫画家石墨超一郎の漫画・パフューマン剣の最新刊を読み、録画していた声優ヒューマギア・香菜澤セイネの主演のアニメや、俳優型ヒューマギア・松田エンジが主演のドラマを見て、1日を締めくくる。この時間もリラックス出来る貴重な時間だ。

P M 2 3 : 0 0 就寝

午後23時。或人はベッドに入り、明日こそ寝坊しないように目覚ましをセットし、部屋の照明を消して眠りにつく。

こうして、飛電或人の1日が終わる。そして明日からまた、夢に向かって飛ぶ若き社長・飛電或人の新しい1日が始まるのだ。

完